別紙様式第１号別添

策定年月	令和6年5月
見直し年月	

麦・大豆国産化プラン

産地名：南越前町

（作成主体：南越前町農業再生協議会）

1．麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

近年、作付面積は大麦・大豆の両作物において、減少傾向で推移しており、単収は、鳥獣害や天候の影響により豊凶の差が大きい。
低単収の原因としては、鳥獣害や播種時の湿害などが考えられ、収量を向上させるため、獣害対策設備や湿害回避技術の普及などが課題となっている。
また品質面では、大麦は細麦による精麦率の低下、大豆では病害虫被害や、しわ粒の発生による品質低下が課題である。
さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、１農家あたりの作業面積が拡大することにより、作業適期の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、播種及び収穫作業の効率化など生産性の改善が課題となっている。

① 需要に応じた生産と販売の実現

大麦　実需と連携し、売れる麦作りのために硝子率の低減や容積重の確保など品質の向上を図る。また、風土にあった品種を栽培することで、収量の増加を図る。

大豆　実需者の国産大豆への需要に応じた生産を確保するため、大豆栽培に適した大麦跡の周年作付を中心に作付面積を拡大し、排水対策や病害虫対策等の徹底を図るとともに、「里のほほえみ」の特性に応じた栽培指導を徹底し、収量・品質の向上に努める。

両作物について、複数年契約の締結を推奨することにより安定した供給体制を構築する。

② 団地化の推進

地域計画による農地集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを推進する。

③ 土づくり

土壌診断に基づく土壌改良材の施用による土壌ｐＨの最適化や、土づくり資材の施用を推進する。

④ 排水改良

排水の改善に向けては、額縁排水と圃場内排水路の施工を溝堀機により深く施工すること、またサブソイラにより補助暗渠を施工することを徹底する。

⑤ 施肥の実施

麦・大豆ともに、それぞれの品種にあった施肥を実施し、品質の安定と収量の確保を図る。

※ 麦・大豆生産における課題（湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等）を具体的に記載すること。
※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

全量JA出荷販売の場合

大麦

【南越前町産地】

生産面積：現状(R5)　4,558 a　　目標(R9)　　5,015 a
生 産 量：現状(R5)　88,889 kg　目標(R9)　111,885 kg

⇩

【集出荷業者】

主な集出荷業者：JA福井県経済連

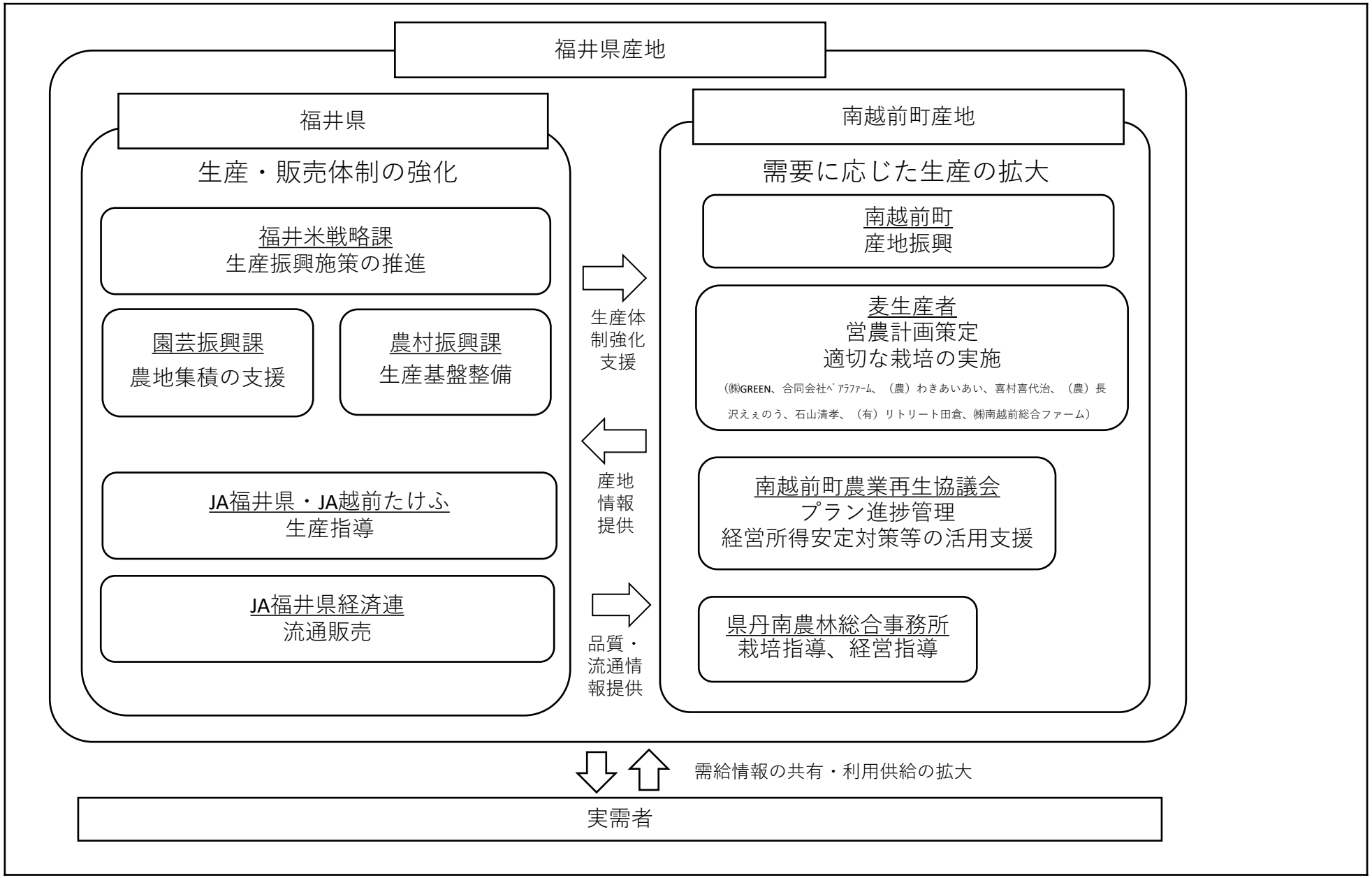
⇩

【実需者】

主な実需者：全農
年間取扱量（福井県産）：
（小粒大麦）現状(R5)13,932 t　目標(R9)14,221 t
主な最終実需者：非公表

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。
※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。
※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。